

ふるさとだより

2018年12月

社会福祉法人 聖フランシスコ会



ふるさとの家

〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋3-1-10

Tel 06-6641-8273

Fax 06-6641-8215

[郵便振替 00930-2-50858]

E-mail : cs-furusato@jasmine.ocn.ne.jp

ふるさとの家を支援して下さる皆様へ

12月は教会にとって待降節です。待つ時期ですが、何かを待つというより誰かを待つ——すなわちイエス様を待つ時です。

釜ヶ崎にはイエス様を待つ人が多いと思います。それはどういうことでしょうか。

イギリスのくつやさんの話を紹介したいと思います。

くつやさんは夢の中でイエス様を見たそうです。

イエス様は彼に話しかけました。

「今夜あなたの家へ行きたいので、よろしくおねがいします」

彼は目覚めてからすぐに家の掃除を始めました。そして、一日中わくわくしながらイエス様を待ちました。夕方5時になった時です。玄関から「ごめん下さい」という声が聞こえました。くつやさんは、大喜びで玄関のドアを開けました。が、そこに立っていたのは みずぼらしい姿をした家のない人でした。彼は何か食べものを下さいと頼みました。

くつやさんは がっかりしてしまいました。

「お断りします。今日はイエス様が来られることになっていますので、早く出て行ってください」その後ずっと待っていましたが、イエス様は来られません。

待ち疲れたくつやさんは、夜遅くやっと布団にはいりました。

夢の中にまたイエス様が現れて言われました。

「タベ行きましたが、あなたは私を歓迎してくれなかったなので、そのまま天国に戻りました」それを聞いたくつやさんは、やっと自分のあやまちに気づきました。

ふるさとの家を支援して下さっている皆さんは、今紹介したような夢は見えていないかもしれませんが、いつもイエス様を歓迎して下さっていますね。そのイエス様に代わってお礼を申し上げたいと思います。

では、去る年と同じように新しい年もまた、皆様の温かいご支援をお願いいたします。感謝を込めて。

ルカ ホルステンク

災害

今年は色々な災害がありました。北海道の地震では土砂崩れで家が飲み込まれたり、あちこちで洪水があり、ライフラインが戻るのも大変だったと思います。そして、いつも何だかんだ他人ごとのような私たちの関西も地震は来るわ、台風が来るわでビックリでした。特に台風は日中に来ることが珍しく、直撃ということだったのでふるさとの家は他の建物より丈夫だろうと思い開館しました。突風であちこちのブリキの屋根が飛んでる建物があり、木も倒れたりとしている中、大した被害もなかったとほっとしていましたが二階の屋根に置いてあった大きな業務用エアコンの室外機が一階の大きな窓ガラスのすぐ横に落ちていました。窓ガラスに当たっていたらと思うとぞっとしましたが、支援者の方から安否の電話をいただき嬉しかったです。

センターと特別清掃事業

新今宮の駅前に40年以上前に日雇い労働者の寄り場として作られた建物だが耐震に問題があるとして建て替える話になっています。地域にも様々な意見がありますが黙って行政の好きにされてしまうので、支援者の有志が集まり労働者や野宿者の意見を聞くなどの取り組みを行っています。

そして大阪府が労働センター建て替えに伴いセンター内の清掃の人数を20人減らすという話になりました。当たり前聞こえますがセンターの清掃のために特掃があるのではなく、特掃そのものはまだまだ足りていないので生活ができるように増やしてほしいと言いつける中での削減、本末転倒です。

生活保護

生活保護を3年かけて段階的に減額していくということです。低所得者層が生活保護世帯の収入を下回っていることが根源にあると思います。生活保護以下の収入でも生活できているからという考え方だろうが、国が決めた最低生活費が生活保護です。そして加算金もどんどん減らされる、物価もどんどん上がる、低所得者層に手立てをしない、消費税も上げる。しんどい人がよりしんどくなる施策ばかり。生活保護を受けたとしても若い失業者には就労指導が厳しいと辞退する人もいる。最近が高齢者に年金の掛け年数が10年でもらえることになり年金を調べると言うが一人でするにはなかなか大変。

入管法

今国会で外国人労働者を確保するため入管法を変えようと急いでいる。一見与党がいいことを考えていて、野党が思いっきり反対している構図に見えるが、今までの劣悪な労働環境や何の社会保障も、家族の受け入れもしないと考えれば、今以上に働きに来た外国人が困るのは目に見えている。このやり方では昔から日雇い労働者が使い捨てにされ、失業したら即野宿になる仕組みと同じである。昔出稼ぎで来て故郷に帰れない人も沢山いたが、外国人は本人の意思に係わらず、自国に返されれば目に見えない所で困っていても日本には何も関係ないと決め込める。そしてこんなに難民も受け入れない国で何を言っているのかとってしまう。困って来てもらうのであれば困っている人を受け入れる。まずそこからでは。

人を大切にしない国と厳しい状況でも人間らしい生き方をする人

今年の11月分の生活保護費から減額になりました。マイナス¥1,330です。そして2年後には、さらにそこからマイナス¥2,670の減額になるそうです。現在の日本で、どのくらいの金額があれば必要最低限の人間らしい生活ができるのか？を考えた末の減額ではなく、病気になってしまうかもしれないようなギリギリの状況の中で、国のお世話になるものかと、低所得で頑張っている人たちのことを全く考えていないのが、今回の生活保護費減額です。一人ひとりのことを第一に考えたり、人間らしい生き方とは何かを考えることとは正反対のこの国の態度は、いたるところに見られると思います。福島のことを終わったこととして、避難した方たちを汚染地に戻らせようとしたり、事故のあった原発の中がどうなっているのか誰も分からない状態なのに、「アンダーコントロールです！」と言いきりながら他の原発の再稼働を着々と勧める態度、沖縄の辺野古移設を何が起ころうとも強行し、沖縄の人たちの話を聞こうともしない態度、自分たちの都合の良いように外国人を使おうとして入管法改正に強行する態度…。

そのような現実の中、国のお世話にならないことを選んで生活しているAさんのことを少し書きたいと思います。彼はふるさとの家の常連さんです。公園の小屋に住んでいて、私がそばを通るとき、大抵周りをせっせと掃除しています。また、ふるさとの家で見かける時は、ラーメン室を使用した後、せっせときれいにガス台の周りの掃除をしてくれています。本当に働き者だなあ、きれい好きだなあ、といつも思います。先日「台風の時、(小屋は)よく大丈夫やったね、そろそろアパートは考えないの？」と聞いたところ、「70までは(生活保護を)受けへん！わし今69やけど、特掃(特別清掃)に行ったら、わしより年配の人がバリバリ頑張るとる！あんなん見てたら、わしももっと頑張らなあかんと思う！」と言っていました。また、彼の小屋の上には、たびたび植木鉢に入った花が一輪飾ってあります。「花は自分で買うんや。」「花を愛でる、そんな心を忘れたらあかん…」ということばも彼から聞いたことがあります。確かに彼は必要最低限の人間らしい生活ができるお金を稼いではいないけれど、そんな中でも、こうして人間らしい心を忘れずに、しかももっとしんどい思いをしている人たちを見つめながら、強く生きています。そんな姿を、色んな人に知ってもらいたいし、特にこの国の大事なことを決めるトップの人たちに知ってもらえたらいいのに…と思います。生活保護費が多い！と数字ばかりを見て、その原因を突き止めて改善しようとはせずに、ただ数字を減らすことばかりを考えるのはやめにしてほしいです。人間として大事なのは何かを見失わず、必要最低限の収入がないにもかかわらず、彼のように人間らしく生きている人たちが存在します。国のやることに腹が立っても、国の権力を前に何もできない無力感を感じます。一方で、彼のように必要最低限の収入がないにもかかわらず、人間らしく生きている姿を見ていると、「例え国が目に見える形ですぐには変わらなくても、彼のような人たちから学ばせてもらいながら、自分自身がまず真に人間らしくなれるように、変えられていく努力をし、置かれた場で自分のできることから実行していく…、結局それしかない。そしてそれが、国が変わる小さな小さな一滴になればいいのかなあ。」と改めて思います。もちろん、国には今回の生活保護費引き下げはおか

しい！と、当事者の方たちを中心に言い続けなければなりません。それと同時に、“真に人間らしくなる”ということを考え、Aさんのことばを振り返った時、つい相手や自分の周りを変えたくなる私は、やはり自分自身が変わらなければならないところに行きつくのでした・・・。



この街

堀部 敬子

先日、関西の番組で、人探しをしているという方が、人形を抱いたおじさんの写真を持って訪ねて来られました。少し道案内しながら「ただおもしろい番組になるのかな？」「この街の事をちゃんと理解した上で番組を作ってほしいな」と発言をすると、若いその方は「はい、分かりました」と神妙に答えてくださいましたが・・・。

その事で感じたことですが、特に関西のバラエティー番組を見ていると、西成や新世界というくだりが出ると、ひな段から軽い笑いがでます。一応に皆同じノリの笑顔で。あれは为什么呢？うんうん知ってる知ってる、おもろい所や、おっちゃん達があちこちで酒飲んでいる。そういう雰囲気のまま番組は他の話題に移っていくのがはがゆいです。

最近、協力をしていただく方ですが、その方は現役の時、行政の立場にいて、定年後、この地域にもどり救護の立場から活動されている中で「自分でもよく戻ってきたと思う、あのまま辞めてこの地域に来なければ、ここの人達の本当の姿を知ることなく人生終わっていた・・・」と、語って下さいました。私はそれやーと叫びたくなりました。特殊な場所でなく、幼い時から想定外の境遇で生きて来られた方々を様々な仕組みで支えている、やさしい特別な場所なのです。

ただくすつと笑う、あそこはねーという印象にしてほしくありません。



自室で死ぬということ

嶋田 ミカ

最近、ふるさとの家を介して、生活保護を申請し、居宅保護になった人たちの高齢化が進んでいる。現在、ふるさとの家のデータに登録されている542人のうち119人が80歳以上である。毎年、20人くらいの人が、亡くなり、さまざまな人生の終わりに接する機会も多い。

Kさん（享年83歳）：歩行は難しかったが、毎日介護が入り、とても穏やかな表情で暮らしていた。今年3月、大腸がんが見つかり、ヘルパーの同意ですぐに手術、人工肛門になった。術後間もなく、気管切開。私が見舞った5月には、意識は朦朧、酸素マスクを着け、苦痛にゆがんだ表情だった。7月に行った時も同じ状態。9月4日に亡くなった。なんのための大腸がん手術だったのか。半年間、死の苦しみをさせただけではないのか。つらい気持ちになった。

Tさん（享年66歳）：昨年12月、自室で脳梗塞で倒れ、3日後に発見されたが、後遺症が残り、車椅子生活となる。主治医も独居は難しいという。インターネットが大好きだったが、施設ではどこも無理で、あきらめてもらった。今年7月、息子に会いたいとケースワーカーに連絡を頼むが、「個人情報」だと拒否。その後、急速に体力が落ち、急性腎不全で入院。8月1日死去。インターネットを取り上げる形になったことが悔やまれる。

Mさん（享年74歳）：三度の飯より酒が好き。高血圧、心臓疾患を抱えている。昨年までは通院していたが、今年に入ってやめてしまった。訪問するといつもろれつが回らず、立ち上がれないほど酩酊している。通院や介護申請を進めるも拒否。6月末ようやく病院へ。医者は炎症反応と貧血があるから入院検査が必要というが、本人は拒否。その後食事もとらず、酒を飲み続け、酒も買いに行けないほど体力低下。9月末、管理人が見かねて救急車を呼ぶが、10月16日急性腎不全で死去。首に縄を着けても入院させるべきだったと悔やむ私に、「Mさんが選んだ生き方だから」と、言う人がいた。最期まで酒を飲めて、本人は幸せだったのかもしれない。

Kさん（享年83歳）：一昨年3月、駅前で倒れ、救急搬送。その後も目眩や耳鳴りが続いていた。腰痛もあり、Y介護が入っていた。今年になって認知症が進み、2-3日行方不明になることもあった。今夏脱水でK病院に入院。病院は歩き回るKさんをベッドに拘束。みかねたY介護が連れ帰り、急変した際にはかかりつけ医師が対応するという連携の上、自室で看取ることにする。Kさんのアパートには多くのY介護が入っているため、日に何度も容態を確認し、必要なケアを行なうことができたという。6月末、部屋に見舞いにいくと、酸素を付けてすやすやと寝ている。10月17日、自室で大勢のヘルパーに看取られて亡くなった。お通夜には10人以上のY介護の人が駆け付けていた。Kさんは温厚な人でみんなに好かれていたという。Y介護では今後も条件が整えば、自室での看取りを増やしたいという。

Oさん（享年83歳）：Y介護からKさんもターミナルだと聞き、お見舞いへ。7月に来た時より、さらにやせていた。入口のドアは介護の目が届きやすいように開け放たれている。眠っているのか、意識がはっきりしないのか、酸素を付けて呼吸は苦しそう。すぐにY介護のヘルパーが来て、オムツを確認。「Oさん、頑張ってやー」と足をさすってあげながら、明るく声をかけている姿が印象的だった。翌日、私たちが帰った1時間後、静かに息を引き取ったという。

私だったら、どんな死を迎えたいか。なるべく、苦しみたくない。無駄な延命処

置はお断り。管理・拘束されることなく、好きなことをして最期を迎えたい。それらをかえてくれるのは、自室での一人死ではないか。ヘルパーや訪問介護、医師の連携による看取りがあれば、一人死であっても、孤独死ではない。介護する側にとっては、手間がかかるだろう。でも当事者の身になれば、自室での看取りが可能になって欲しい。同時に、周りの都合で、入所や入院を押し付けることがあってはならないと、自戒を込めて思う。



一休作業所のバザーとろうソク作り

ふるさとの家で前で月、金曜日早朝よりシスターエンマ(守護の天使修道会)とシスター勝谷(援助修道会)が労働者と一緒にバザーをやっています。このバザーが面白いのが「こんなものないか、あんなものないか」というお客さんに「また聞いとくわね」と断らないので色んなリクエストを受け付けています。両シスターは高齢にも係わらず少々の雨が降っても負けずに労働者に賃金が渡せるようにとがんばってバザーをやっています。この人たちは槍が降ってもやり続けそうです。

ろうソクは昔から釜ヶ崎や神戸活動センターでボランティアをし、老人ホームで働いている溝口さんが労働者と一緒に作っています。紹興酒の瓶を探しに行ったり手間がかかりますが、いろいろきれいな色のろうソクが作られています。クリスマスが近い今は大忙しですが、がんばっています。

細々とですが息の長い活動をしておられます。ふるさとの家へ全国から支援していただいている支援物資を分かち合いながら共に協力して活動しています。

ボランティア紹介

佐々木さん、宇田さん

二人とも毎日、閉館時の掃除を手伝ってくれています。二階のとももの広場の掃除が終わったあと、一階の談話室の掃除もしてくれてとても助かります。

枚方(ひらかた)教会の方々

水曜日に二階の詰め所に来ていただいている天田さんの紹介で、第二、第四水曜日に2~3人で来て下さいます。昼食を作っていただいたり、片づけをしていただいたりして、その後、隣の愛徳姉妹会の昼まわりにも参加されています。

老野生(おいのしょう)さん 僧侶で何かボランティアをということで木曜日のバザーに来てもらっています。

事務室より

☆ 2018 年度中間会計報告

(2018 年 4 月 1 日~2018 年 9 月 30 日)

単位：円

収入の部		支出の部	
寄付金	4,938,520	人件費	4,673,020
受取利息	2,033	活動費	1,262,325
雑収入	332,872	資金収支差額	▲ 1,661,920
合計	5,273,425	合計	5,273,425

雑収入：バザー売上 売電

人件費：常勤 1、非常勤 4

活動費：事業費（保健衛生費、教養娯楽費、水道光熱費等）

事務費（ボランティア交通費、通信費、消耗品費等）

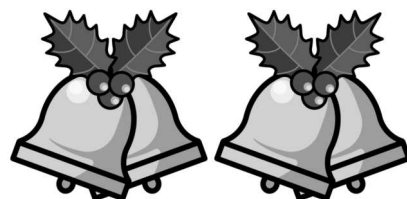
★ 寄付金控除について

社会福祉法人聖フランシスコ会ふるさとの家への寄付金は所得税、相続税の寄付金控除や法人税の損金算入など税制上の特別措置が認められています。詳細は国税庁のホームページ（<http://www.nta.go.jp>）をご覧ください。

※寄付金控除を受けるためには確定申告時に「領収書」が必要です。大切にしてくださいようお願いいたします。

★会計担当でバザーなども担当してくれていた藤井さんは 6 月末で退職しました。ボランティアを経て職員になっていただいてから 20 年以上ふるさとの家の活動を支えてくださいました。

後任に古賀に事務をしてもらっていますが日常の利用者のフォローと兼任してもらっているので礼状などが遅れて迷惑をかけることがあると思いますがこれからもご支援をよろしくお願いいたします。



ふるさとの家で必要なもの



*特に不足しているもの

かみそり・ライター（共に使いきり用）・石けん・タオル・カイロ

●男性用の衣類(季節のものを) ・肌着（パンツ・シャツ、新品を）・靴下

●お菓子（誕生会に） ●お茶・コーヒー・クリーム・砂糖・缶詰

●ラーメン・特大どんぶり・箸 ●18～20cmの片手鍋（それ以外は使えません）

●絆創膏（バンドエイド） ●雨具（カッパ・傘）

●洗剤 ●使いきりマスク ●大きめの紙袋

●運動靴(スニーカー)、大きいカバン（ボストンバック・リュック）

●毛布、寝袋（10月～3月の間のみ、きれいなもの。布団は使えません）

注意

※ 食品は賞味期限内のものだけをお願いいたします。

布団、背広・コート・カッターシャツ、女性衣類、子ども衣類、季節に合っていない衣類、汚れていたり破れていて人に渡せないような衣類は、使えませんのでくれぐれもご注意ください。

その他、保管場所がありませんので、負担になるものはご遠慮ください。

お願い 連帯して活動している、下記の勝ちとる会の炊き出しは継続していますが、賃貸事務所の建替え後は電話がなくなりました。荷物は届きます。

三角公園の炊き出しで使うもの

米、調味料（化学調味料を除く）、日持ちのする野菜、乾物

送り先：勝ちとる会（電話はありません）

〒557-0003 大阪市西成区天下茶屋北2-6-14

☆荷物についてのお願い☆

「日曜・祝日・隔週土曜日」は、ふるさとの家の休みとなっています。

宅急便などで荷物をお送りいただく際には、

月曜から金曜の午前10時半～午後5時までに届くように、お願いします。